

(2) 自由時間における主な活動

外国語活動を行う者の割合は10～14歳と20～24歳で上昇傾向。テレビゲームなどを行う者の割合は10代では低下傾向だが20代では上昇傾向。海外に観光旅行をする20代の割合が1990年代半ば以降大きく低下。

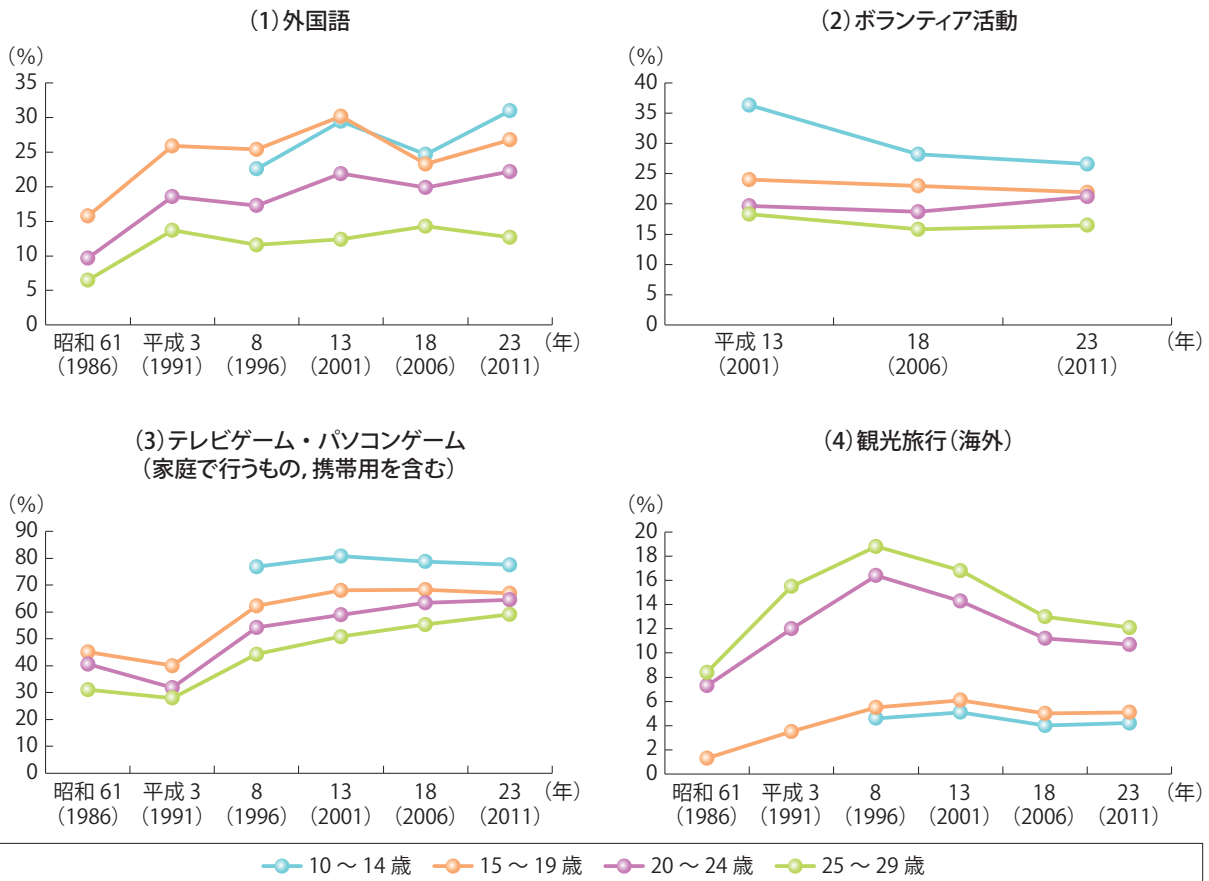
1年間に自己啓発やボランティアに関する活動を行った者の割合をみる。自己啓発として外国語に関する活動を行った者の割合は、1990年代以降、10～14歳と20～24歳では増減を繰り返しつつも上昇傾向にある。15～19歳では2000年代初頭まで上昇した後、低下し、近年再び上昇している。25～29歳ではおおむね横ばいで推移している。この5年では、特に10～14歳の者の割合が大きく上昇している。(第1-6-9図(1))

1年間にボランティア活動を行った者の割合は、10代では低下傾向、20代では横ばいないし上昇傾向にある。(第1-6-9図(2))

趣味・娯楽としてテレビゲームやパソコンゲームを行った者の割合は、10代では低下傾向にある一方、20代で上昇傾向にある。(第1-6-9図(3))

1年間に海外に観光旅行をした者の割合は、1990年代半ば以降、10代では横ばいで推移しているが、20代では大きく低下している。(第1-6-9図(4))

第1-6-9図 自由時間における主な活動の行動者率

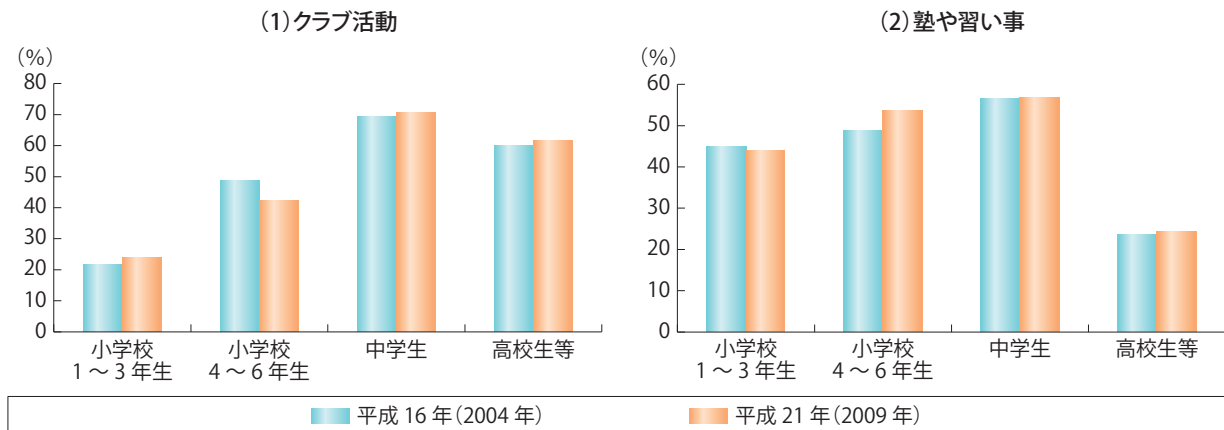


(出典) 総務省「社会生活基本調査」
 (注) 行動者率とは、1年間に上記活動を行った者の当該属性人口に占める割合。

学校の終業後の状況を見ると、地域のスポーツクラブなどを含めたクラブ活動を行っている者は、小学校1～3年生で23.9%、小学校4～6年生で42.3%、中学生で70.7%、高校生等で61.7%となっている。(第1-6-10図(1))

塾や習い事に行っている者は、小学校1～3年生で44.0%、小学校4～6年生で53.6%、中学生で56.8%、高校生等で24.4%となっている。(第1-6-10図(2))

第1-6-10図 終業後のクラブ活動や塾の状況



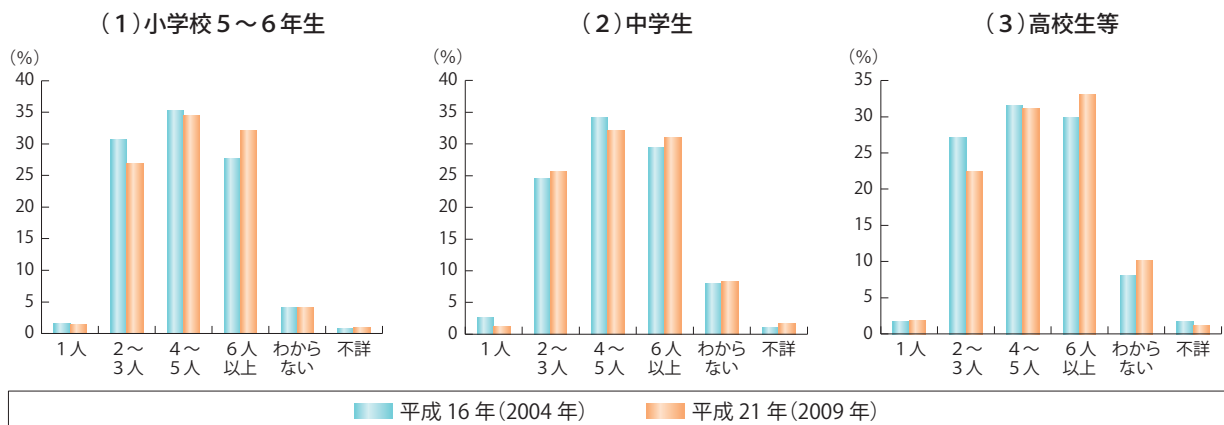
(出典) 厚生労働省「全国家庭児童調査」
(注) 高校生等とは、高校生と、各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒の合計。

(3) 遊び

一緒によく遊ぶ友達は4～5人。普段の遊び場は「友達の家」が最も多い。

一緒によく遊ぶ友達の人数をみると小学校高学年と中学生では4～5人が最も多く、高校生等では6人以上が多い。過去5年で、6人以上との回答割合が上昇している。(第1-6-11図)

第1-6-11図 一緒によく遊ぶ友達の人数

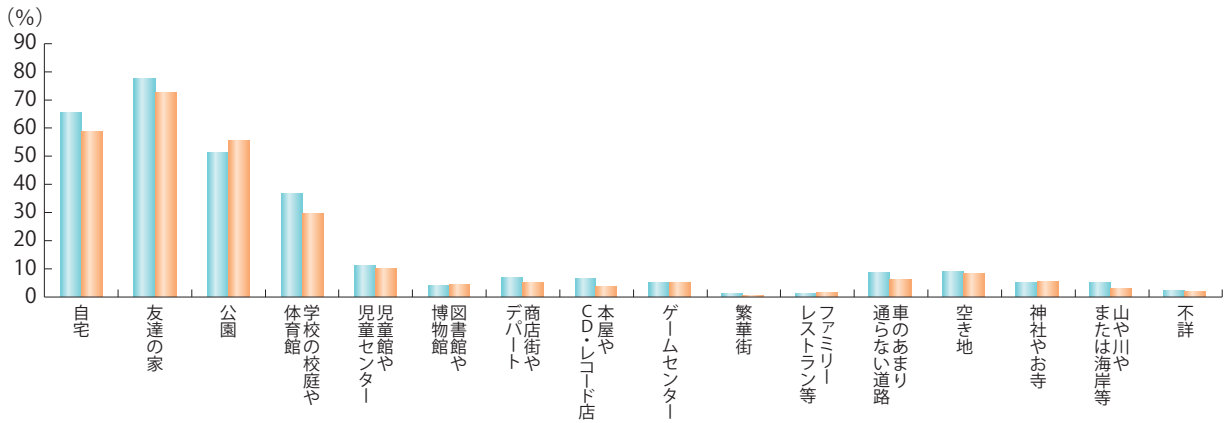


(出典) 厚生労働省「全国家庭児童調査」
(注) 高校生等とは、高校生と、各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒の合計。

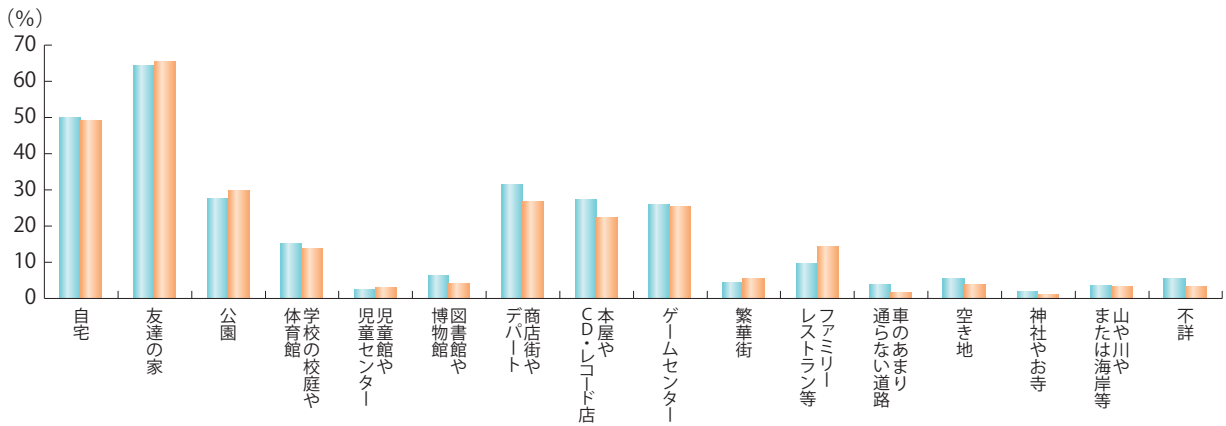
普段の遊び場は、いずれの層でも友達の家が最も多い。次いで、小学校高学年と中学生では自宅が多く、高校生等では商店街やデパートとなっている。5年間の変化をみると、いずれの層でも自宅が減少している一方で、公園が増加している。中学生と高校生ではファミリーレストランの伸びが大きい。(第1-6-12図)

第1-6-12図 普段の遊び場

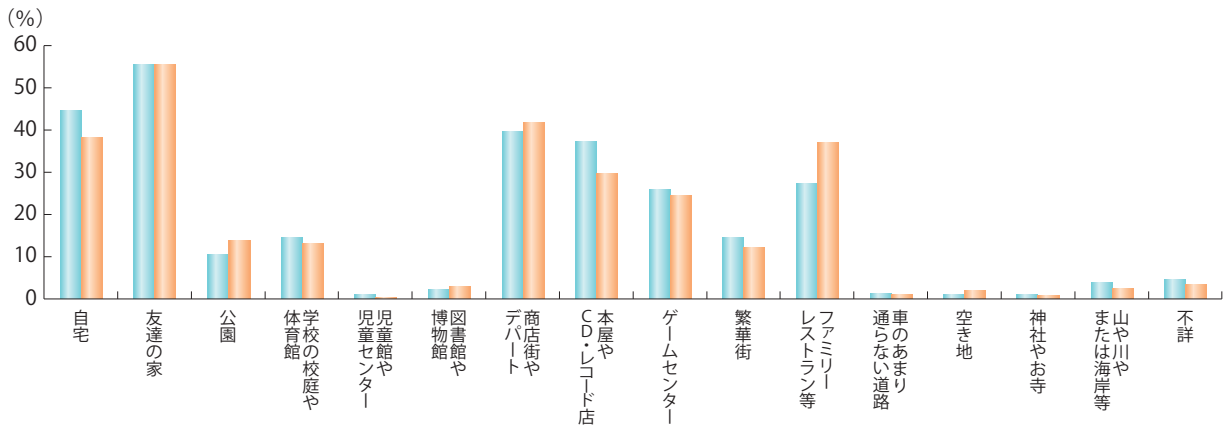
(1) 小学校5～6年生



(2) 中学生



(3) 高校生等



■ 平成16年(2004年) ■ 平成21年(2009年)

(出典) 厚生労働省「全国家庭児童調査」
 (注) 1. 高校生等とは、高校生と、各種学校・専修学校・職業訓練校の生徒の合計。
 2. 複数回答。

(4) 携帯電話やインターネットの利用

高校生の9割以上が携帯電話を所有しており、うち8割はスマートフォンを所有。スマートフォンでインターネット利用に制限が行われているのは5割前後。年齢層が上がるほど、インターネット上のトラブルなどを経験する割合が増える。

携帯電話の所有状況を見ると、小学校4～6年生の36.6%，中学生の51.9%，高校生の97.2%が携帯電話を所有している。(第1-6-13図(1))

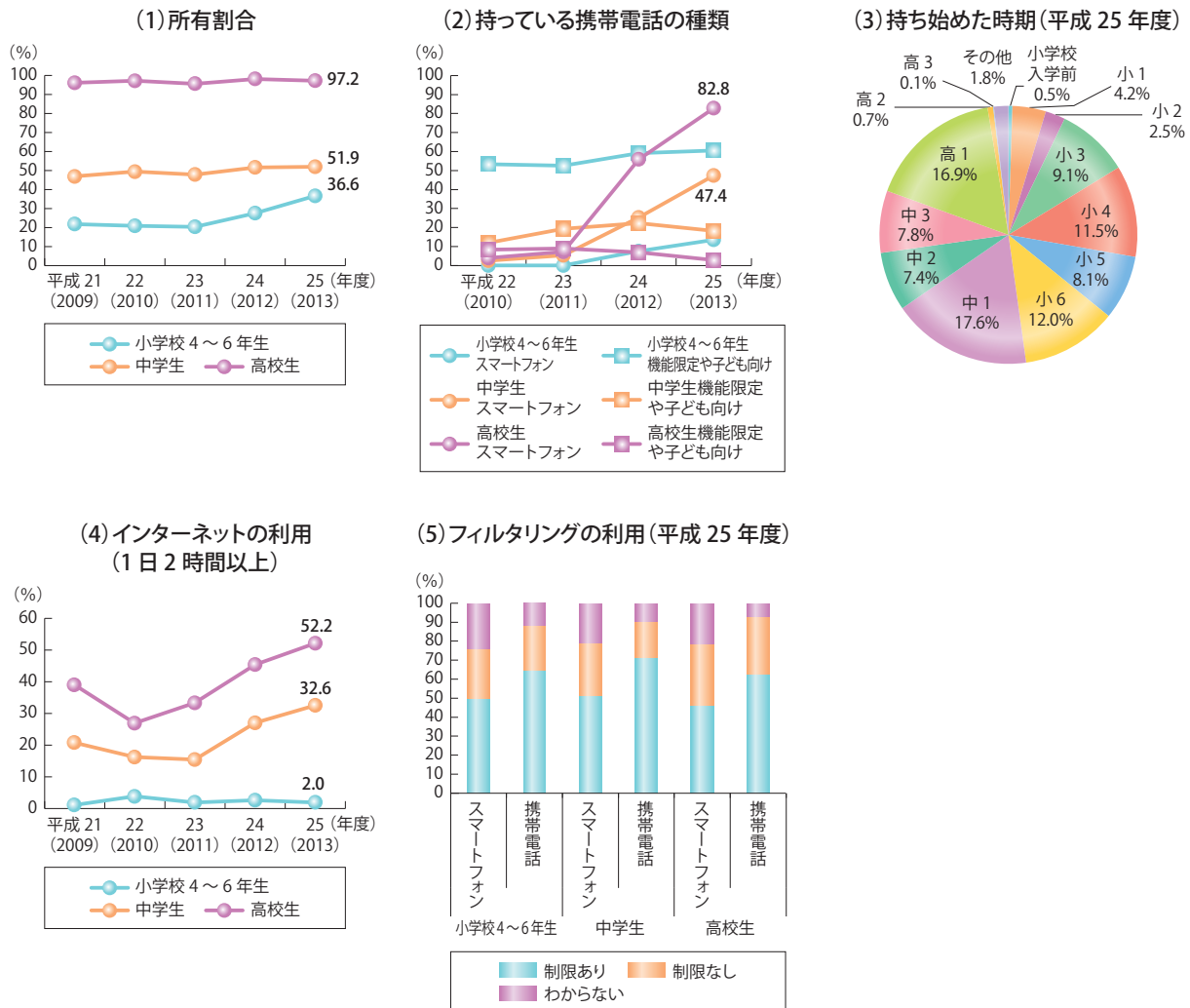
持っている携帯電話は、小学生では機能限定や子ども向けのものが多いが、中学生・高校生ではスマートフォンの割合が大きく上昇しており、平成25(2013)年度には、携帯電話を持っている高校生の8割以上がスマートフォンを所有している。(第1-6-13図(2))

持ち始めた時期は中1(17.6%)が最も多く、高1(16.9%)、小6(12.0%)と続いている。中学生になる前に持ち始めた者が半数弱を占めている。(第1-6-13図(3))

携帯電話で平日1日当たり2時間以上インターネットを利用する者は、中学生・高校生で上昇しており、平成25年にはそれぞれ32.6%，52.2%となっている。(第1-6-13図(4))

フィルタリングやインターネットを使えない機種・設定にするなどインターネット利用に何らかの制限が行われている者は、スマートフォン以外の携帯電話では6～7割であるが、スマートフォンでは5割前後となっている。(第1-6-13図(5))

第1-6-13図 携帯電話(PHS・スマートフォンを含む)の利用状況



(出典) 内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」
 (注) 1. (1)の所有割合は、自分専用と家族と一緒に使っているものの合計。
 2. (2)において、機能限定スマートフォンや子ども向けスマートフォンは割合がわずかであるため、含めていない。
 3. (5)において、「制限あり」とはフィルタリングを「使っている」又は「機能・設定による制限」があるという回答の、「制限なし」はフィルタリングを「使っていない」かつ「機能・設定による制限」がないという回答の割合。
 4. (5)以外は10歳から17歳までの者に対する調査の、(5)はそれらの者と同居する保護者に対する調査の結果。

パソコンの利用状況を見ると、小学生・中学生・高校生の8割前後となっている。(第1-6-14図(1))